

※幼児については、保護者同伴でお願いします。必ず上靴を持ってきてね!

日	時間	事業名	内容	定員
11月 5日(土) 12日(土) 19日(土) 26日(土)	14:00~16:00	子ども広場	【将棋広場】~初めての人・少しでも興味を持った人は、気軽に参加してください~ 対象:おおむね小学1年生~6年生 ※開催日が変更になる場合があります。	なし
11月10日(木)	10:00~11:30	子育てセミナー	【親子体操】~親子で楽しく体を動かそう!~ 講師:山本尚明氏(体育文化指導協会) 場所:青少年児童センター 体育館 持物:水筒・タオル・着替え・親子とも体育館シューズ ※定員はありませんが、初めての方は事前に申し込みが必要です。	なし
11月26日(土)	10:30~11:10	おもしろ教室	【人形劇】~楽しい人形劇を見に来ませんか?~ 講師:人形劇団「ポップコーン」 内容:「3びきのやぎのガラガラドン」(ノルウェイの昔話) 「とりかえっこ」(絵本 とりかえっこ より) ※満席の場合は、入場をお断りする場合がございますので、ご了承ください。	なし

きらりはびきの

入場無料

~男女共同参画フォーラム&人権を考える市民の集い~

主催:羽曳野市・財団法人自治総合センター
後援:羽曳野市人権啓発推進協議会
※このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです。
その他:手話通訳あり・無料一時保育あり
(要予約:2歳から就学前までの児童)

◆申込方法◆ 定員:400人(先着順)

電話・ファクス:はがき(または封書)・Eメールにて随時受付します。
(電話以外の場合は、①氏名②住所③連絡先電話番号④年齢⑤参加希望人数⑥一時保育の希望有無を記載のうえ、お申し込みください。後日入場整理券を郵送します。
また、一時保育希望の方については、後日人権推進課より連絡します。

◆申込・問合せ◆ 締切:11月25日(金) 必着

〒583-8585 羽曳野市菅田4-1-1
羽曳野市役所 人権推進課
☎072-947-3606(直通) FAX072-958-8061
E-mail jinkensuishin@city.habikino.lg.jp

とき

平成23年12月4日(日)
13:30開場 14:00開演(17:00終演)

ところ

LICはびきの ホールM
(羽曳野市軽里1-1-1)

第1部 基調講演

『女のストレス 男のストレス』
~元気になるための処方箋~

講師:海原 純子(うみはら しゅんこ)さん
医学博士・白鷲大学教授

第2部 パネルディスカッション

『本当の自分を見つけ、輝いて生きる』
~家庭・子育て・職場 まあるい関係~

コーディネーター:藤木 美奈子(ふじき みなこ)さん
NPO法人 WANA関西代表・龍谷大学教授

サラダボール

書店で中学生が漫画の本を万引きした。警察官に任意同行を求められると、自分の連絡先も言わずに逃げ出し、踏切で電車にはねられて死亡した。悲しい出来事だが、このことにより書店の店主に非難や抗議が集中した。店主は、万引きに対する対応に迷いが生じ、その後の万引きを見逃してしまった。精神的に追い詰められた店主は店を閉じることとなった。

店主が万引きを警察に通報するのは当然である。店主を非難した人たちは、万引きはささいなことであると思っているのかもしれないが、万引きはれっきとした犯罪である。

普通の少年が、ふとしたきっかけでキレて、突然凶悪事件を引き起こすことが後をたたない。

「自立したかった」と言ってバスを乗取る。「人の骨や内臓を見たかった」と言って爆弾を投げ込む。お金欲しさにタクシー強盗殺人を犯す。……

しかも事件は徐々に低年齢化、凶悪化してきていて、大人の犯罪を真似ているように思われる。

なぜこんな事件が後を絶たないのか。原因は色々な説があるが、そのひとつに家族と一緒に食事をすることが少なくなり、ファストフードが日常化し、脳が発達する時期に必要な栄養が摂れていないために、脳の機能が未発達のまま少年期を迎えているのだそうだ。また、「自分に自信が持てない」ことも原因のひとつと言われている。自分に自信が無い人ほどキレやすく、人にひどくあたり、暴力を振るう傾向が大きいのだそうだ。他には、家庭と地域、学校の連携の希薄なことも大きな原因になっていると思う。

先日読んだ新聞の投書欄に、素敵な母子の親子関係を示す記事を見つけた。「娘が遠方へ嫁いだ日、娘の布団の中に手紙を見つけました。何だか涙があふれてきましたが、気を静めてから封を開

けました。摂食障害になって心配をかけたお詫び、自由に好きなことをさせてもらったので今の自分があること、凶らずも遠く離れることになって心配している気持ちなどでした。「お母さんのような母親になれるように頑張る」とも書かれ、娘を持った幸せを感じます。」と結んであった。母親は「この手紙は、目に入ったごみを流し出すために大切に持っているね。」と娘に返事を書いたのだそうだ。私も日々このような親子関係を築けるように過ごしたいと思っている。

東日本大震災の後よく流れているTVコマーシャルで「くころ」は誰にも見えないけれど、「くころづかい」は見える。胸の中の「おもい」は見えないけれど、「おもいやり」は誰にも見える。」というのがある。我々大人自身も、「くころづかい」や「おもいやり」を大切に、そういうことのできる子どもを育てていくことが大切だと思う。

(人権推進課)